

令和8年度平和使節団 個人報告書



牛久市教育委員会 生涯学習課

研究課題：被爆者がいなくなる時代に、 私たちはどうやって原爆の記憶を残すか。

牛久市立牛久第一学校 2年 原 結衣花

1 研究課題設定の理由

現在、被爆者の方々の高齢化が進み、直接体験を聞く機会が減っています。被爆者がいなくなった世界で戦争の記憶や平和への願いを未来へ繋がないといけないと思い、この研究課題にしました。原爆の記憶を忘れてしまえばきっと同じことを繰り返してしまいます。このことを防ぐためにも、私は被爆体験を直接聞くことができる最後の世代として、原爆の記憶を残すことが必要だと感じました。

2 研修の記録（事実や気づき・印象的な体験・自分の意見・心に残ったこと）

(1) 戦争当時の牛久の様子（講話）から学んだこと

牛久は空襲の標的となるような軍事施設や大きな工場はなく、空襲による直接的な被害はなかったと分かりました。ただし、軍隊に関わる施設が直接なくとも、戦争は物資的にも金銭的にも人々に多大な負担を強いたとも分かりました。軍隊、戦争への関わり方は地域によって様々であり、それぞれに生きる知恵、苦しさ、決断があり、戦争の経験はどこも同一ではないと気付きました。

(2) 被爆体験者のお話から学んだこと

被爆体験者からのお話を聞いて学べたことは、原爆は人と共存できるものではないということでした。被爆者から、数え切れないほどの辛いお話を聞きましたが、特に印象に残ったのは、「自由に発言できない」ということでした。英語の歌を歌えなければ、英語の本も読めない、「戦争は嫌だ」と戦争を否定する発言は許されず、非国民と言われてしまうと聞きました。自由に発言できることは平和の証であり、幸せなのだと気付かされました。

(3) 平和資料館および平和公園（原爆ドーム）から学んだこと



原爆の大きな特徴は、爆発したときのエネルギーが、それまでの火薬を使った爆弾とは比べ物にならないくらい大きいことと、人体に危険な放射線を出すことだと学びました。さらに原爆の被害はその後にも後障害という長期にわたる様々な障害が現れ、現在も苦しんでいる人もいと分かり、原爆は死んでしまった苦しみだけでなく、生き続ける苦しみも与えたのだと思いました。

また、黒焦げたお弁当やボロボロの衣服などの遺品を見て、自分と同じくらいの子供たちの日常が一瞬で奪われたことに強いショックを受けました。核兵器は人間らしく生きる権利も死ぬ権利も奪い、絶対に許されないものだ学びました。



(4) 広島市平和記念式典に参列して感じたこと・学んだこと

式典では、原爆が投下された時刻に合わせてささげられた黙祷で、会場にいる全員が同じ思いで平和を祈っていることに深い一体感を覚えました。また、まだ小学6年生の広島の子供たちが、「平和とは誰かからあたえられるものでなく、世界中の人々で創り上げるものだ」とかけがえのない大切なものを、確かな希望を、未来に届けるためにその一員として平和への一步を踏み出そうとしている姿が今でも心に残っています。そして、平和とはただ戦争がない状態ではなく、誰もが当たり前の日常を安心して送れることなのだととても強く感じました。

(5) 呉市大和ミュージアム、海自資料館の訪問から学んだこと

特攻兵器「回天」の搭乗員に塚本太郎さんという人がいたそうで、塚本さんは慶応義塾大学で勉強をしていましたが、戦争が長引くにつれ、将兵の数が足りなくなり、戦争へいかなければならなくなったため、海軍へ入隊、「回天」の搭乗員に志願したと知りました。「回天」は敵艦に体当たりする、生きて帰る見込みのない特攻兵器でした。塚本さんは出撃する前に自分の声を録音し、家族に残したそうです。

塚本さんのように勉強したくても出来ず、戦争に行かなければならない人が多くいたと思うと心が痛みました。そして自分が今どれほど恵まれているのかを実感しました。



3 研修を終えて（平和への考え）

(1) 学校や家族に伝えたいこと

毎日ご飯を食べ、家族と話し、安心して眠れる日常がどれほど幸せなことか気付くことができました。私たちが笑い合っているときにも、尊い命が失われている現状があり、今もどこかで当たり前の日常が奪われていることを伝えたいと感じました。また、一人一人の行動が平和の後押しとなることや、相手の気持ちを想像し、意見の違いがあっても認め、受け止めることが大切だと伝えたいです。

(2) これから行動していきたいこと

広島を訪れ、平和について学び、私たちは被爆体験を直接聞くことができる最後の世代として、当時の記憶を事実として受け止める使命があること、そして過去の事実を忘れず未来へと語りついでいく責任をとっても強く感じました。何気ない日常に感謝し、周囲の人とお互いに尊重し合うことから始め、目をそらさずに悲しい現実でも向き合っていきたいです。そして、「二度と繰り返してはならない」という強い思いを胸に、大人になっても平和の尊さを忘れずに発信し続けられる人になりたいと思いました。



研究課題：原爆が人々の生活と人体に及ぼした影響を知り、伝える。

牛久第一中学校

2年 鎌田彩加

1 研究課題設定の理由

原爆がどれだけ恐ろしく、どのような影響をもたらすのかを知りたい。その現実を知らない人たちに伝え、『もう二度とこんなことを起こしてはならない』という思いを込めてこのテーマにしました。

2 研修の記録（事実や気づき・印象的な体験・自分の意見・心に残ったこと）

(1) 戦争当時の牛久の様子（講話）から学んだこと

牛久市は直接戦場になったわけではないということがわかりましたが、戦争による被害は大きかったことがわかりました。軍に派遣され、物資（食料や衣類・金属など）を取られるなどの人々に大きな負担を強いたことがわかりました。また、学校にも行けず仕事をするのを強制されていたことも知りました。特に軍に入ることは喜ばれていて、出征兵士の見送りは盛大にお祭りのように行われていたことが印象的でした。特攻隊員など人の命をないがしろにするものがあり、そこまでして戦争をしなくてはいけなかったのかと思いました。

(2) 被爆体験者のお話から学んだこと

一つの爆弾で半径2kmが焼け野原になり、生き残った人は大けが、生き残ったとしてもその後も後遺症に苦しみ、家族を亡くして心の傷を背負っていくのだと梶本さんは語ってくれました。原爆は人の心にも影響することを知り、二度と繰り返してはいけないことだと心から実感させられました。

戦時中は外国のものはすべて廃止されていて、英語なんて学べないことがわかりました。また、アメリカは逆に敵国について学んでいたということも教えて頂きました。

平和とは、「自由に話せる」「当たり前の毎日」「強制がない」ことだと伝えてくれました。私たちは、今の当たり前に感謝するべきだと思いました。

全国の60.3%の人が原爆について聞いていない（聞いたことがない）ということを教えてもらい、このままではいけない、自分たちが声を大にして伝えることはとても大事なのだと思いました。梶本さんは『このままでは原爆は忘れられて行ってしまう。忘れられたらまた繰り返す。繰り返さないために教えてください。原爆のひどさを、つらさを、苦しさを伝えてください。大きな力になるのです。』『無知と無関心は共犯者だ。』とおっしゃっていました。私たちは原爆について学び、そして伝える。それが大切だと気付きました。

(3) 平和資料館および平和公園（原爆ドーム）から学んだこと

原爆ドームは全体の3分の1しか残っていないことから、原爆はとても被害が大きかったことがわかります。原爆で亡くなった人の骨が保管されているところには、名前がわかる人は骨壺に、わからない人は木箱に入っているということがわかりま



した。名前がわからない、という人がいたということに驚きを隠せませんでした。また、今まで戦争での被害が少なかった広島に原爆を落とした理由は威力を試すためだということにも驚きが隠せず、何とも言えない気持ちになりました。

原爆で亡くなった人たちのために平和の池や平和の灯、原爆の子の塔があることがわかりました。平和の池には水が飲めず亡くなった方が多くいたため、その人たちのためにきれいな水を流していること。平和の灯は燃え続けていて、この世界から核兵器がなくなるまで燃え続けることがわかり



ました。原爆の子の塔には毎年折り鶴がささげられていて、その折り鶴は再生紙にしている、ということも学びました。

資料館では主に人々の生活や人体への影響を調べ、学びました。ケロイドや原爆症など、落ちた時の怪我だけでは済まない、ということが分かりとても心が痛みました。時計やお弁当箱など、今まで当たり前を送っていたということが伝わり、「なんて原爆はひどいものなのだと」「原爆は建物だけでなく、人の心や体も傷つけるのか」と心から思いました。

(4) 広島市平和記念式典に参列して感じたこと・学んだこと

とても緊張感があり、どれだけ重要で重い式なのかということを感じました。式の中で、原爆によって亡くなる人は増えているということが分かり、原爆の影響を考えさせられました。

この式に参加しないとわからないことがたくさんあるということがわかったのでこれからも平和使節団としてこの式に参加し続けてほしいと思いました。



(5) 呉市大和ミュージアム、海自資料館の訪問から学んだこと

日本は攻撃されているだけのかわいそうな国ではなく、こちらも攻撃するための武器を多く作り、新しい兵器を作り続けていたことがわかりました。また、呉は軍港だったため被害を受けやすかったということもわかりました。

3 研修を終えて（平和への考え）

(1) 学校や家族に伝えたいこと

今回学んだことをわかりやすく、また広めてもらえるように伝えていきたいと思います。

今の幸せは当たり前ではないということを理解して、今の当たり前を簡単に見ずに今を大切にしてほしい。そして伝えられた原爆のひどさをまた多くの人に伝えていってほしい。自分と周りの人たちを大切にしてほしい。こんなことを二度と繰り返さないために平和について考えて行動に移してほしいと伝えたいと思います。

(2) これから行動していきたいこと

今回学んだことを伝え、伝え続けるということをして今の世界の現状を知ってほしいと思います。また、今の日常は当たり前ではなくなるかもしれないと常に考えて日常に感謝することや思いやりの気持ちを忘れずに、自分も周りも大切にしていきたいと思います。さらに、平和とは何か、平和であり続けるにはどうすべきかを考えて生活することを大切にこれから行動していきたいと思います。

研究課題：人々が歩んだ道 ～未来へ：step by step～

牛久第一中学校

2年 市村日菜多

1 研究課題設定の理由

私がこの課題にした理由は、原爆が落とされたことによって焼け野原になり、たくさんの人たちの命が失われた中で、生き残った人たちがどのように広島を復興、発展させたのかを知りたかったからです。

2 研修の記録（事実や気づき・印象的な体験・自分の意見・心に残ったこと）

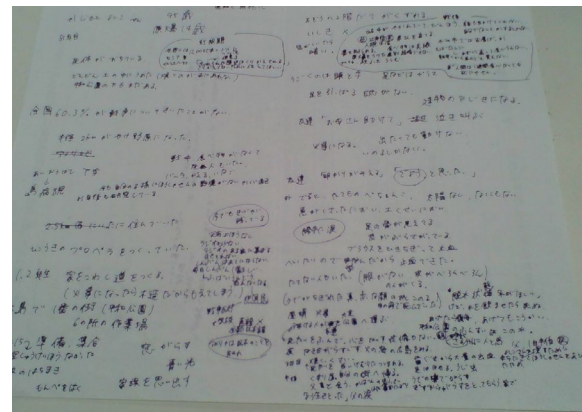
(1) 戦争当時の牛久の様子（講話）から学んだこと

牛久市は直接的な被害は少なかったですが、軍事施設が広がっていた霞ヶ浦付近は標的にされることが多かったため、牛久市が爆撃機の通り道になることがあったそうです。直接的な被害は少なくとも、1日に配給される米は330gととても少なかったそうです。これだけでもすくなくったというのに、米の代わりにイモ類が配給されることもあり、戦後餓死者がでることもあったそうです。直接的な影響は少なかったのに、死者がでたり生活に困ったりすることがあったということに驚きました。

(2) 被爆体験者のお話から学んだこと

戦後10年くらいは、ずっと貧しい生活が続いたそうです。10年間は衣食住もしっかりそろっていないことがあったそうです。10年ほどたつと、原爆の被害を受けた人たちの医療費を国が負担するようになったり、食べ物は十分ではありませんでしたが、小麦、野菜、米も少しずつ食べられるようになったりしたそうです。しかし、10年たってもガスは使えなかったそうで風呂は火と薪で使っていたそうです。

また、原爆を受けた人は結婚ができなかったり、「原爆病はうつる」と言われたりと差別に苦しんだそうです。また、梶本さんは原爆の時の傷がまだ残っているそうです。講話をしてくださった梶本さんに話を聞くまでは、原爆を受けた人は原爆を受けて体に傷を負うだけだと思っていましたが、心にも傷を負うということを知って被爆者の方は本当につらい思いを乗り越えているのだなと思いました。



(3) 平和資料館および平和公園（原爆ドーム）から学んだこと

原爆が落とされた8月6日は晴天だったそうです。米国は原爆をT字路である相生橋を狙っていましたが、実際には今も続いている島内科医院という病院の上空約600mで爆発し、爆心地付近は3000度～4000度になったそうです。

また、原爆投下直後は水を求める人が多く、川に飛び込んだ人もいましたが、広島市は海が近く川に海水が混ざっているため、塩水の影響で亡くなった方もいたそうです。



～復興 未来へ～

青空教室 1945～1946

学校の校舎が破壊されたため校庭にムシロを敷くだけの「青空教室」で授業を行っていました。また、被害が少なかった学校などを借りて授業を行った学校もありました。

広島大博覧会 1958

戦前最大の人口を回復した 1958 年に復興を記念して開催されました。広島城の天守閣も復元されました。90 万人以上が来場しました。

反核 20 万人集会 1982.3.21

平和のためのヒロシマ行動では平和記念公園で約 20 万人が核に対する意思を示しました。

原爆ドームの保存 1966

市民からは「悪夢を思い出させる」という声もありましたが、広島市議会は保存を決議しました。

現在も広島市内の中高生が被爆者に話を聞くという活動が続けられています。

広島平和記念都市建設法 1949

世界に向けて恒久平和を訴える記念都市として建設することを目的とされました。

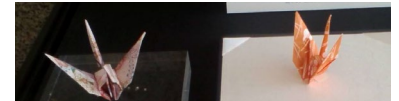


広島カープの誕生 1949

広島カープは市民球団で、1957 年には市民の寄付などによって市民球場が建設されました。

オバマ大統領の広島訪問 2016

子供たちにオバマ大統領が折った鶴 2 羽を渡しました。



(4) 広島市平和記念式典に参列して感じたこと・学んだこと

原爆を落とした国であるアメリカの方が参列していたことに驚きましたが、それだけアメリカの方やたくさんの国の方が「原爆について知りたい」と思っていると思うとどれほど悲惨な出来事だったのかを考えることができました。また、8 時 15 分の黙とうの静けさも印象に残っています。ただ静かな空間に鐘の音が響いていました。言葉も文化も違う国の方々が集まっていて、あの静かな空間で全員同じことをしていると思うと本当に大変な出来事だったのだなと思いました。

(5) 呉市大和ミュージアム、海自資料館の訪問から学んだこと

原爆投下の後、広島市の隣である呉市も市街地は廃墟化していたそうです。生活も衣食住もままならないくらい苦しかったそうです。

水中特攻兵器という特攻機の水中版のようなもので、戦った人は生きて帰ることを前提としていましたが、生きて帰ってこられなかった人もいたそうです。



3 研修を終えて（平和への考え）

(1) 学校や家族に伝えたいこと

今を生きる私たちにとって、原爆や戦争は必ず向き合わなければいけないことだということを伝えたいです。また、広島で講話をしてくださった梶本さんは「戦争という過ちを繰り返さないでほしい、時間が経つと戦争という出来事が昔の話になってしまう。」とおっしゃっていました。この 2 つの梶本さんの思いをたくさんの人に伝えたいです。

(2) これから行動していきたいこと

毎日普通のことのようにならざるをえない衣食住が幸せなことであることを忘れずに生活していきたいです。また、広島を訪れて自分で見て聞いたことをたくさんの人に伝えていきたいです。

研究課題：見えない痛みに触れ、その想いを次に繋ぐ

牛久第一中学校

2年 圓城寺 美緒

1 研究課題設定の理由

「戦後から 81 年が経過した今、被爆した方のお話が直接聴けるのはとても貴重なことだから、被爆した方のお話を直接聴いた自分が痛みや気持ちを伝えていきたい。伝えていくことで、多くの人に戦争の悲惨さや平和の尊さについて考えてもらえるようなきっかけになりたい。」と思い、この課題を設定しました。

2 研修の記録（事実や気づき・印象的な体験・自分の意見・心に残ったこと）

(1) 戦争当時の牛久の様子（講話）から学んだこと

この講話の中で私が一番印象に残ったことは、「牛久は、敵軍との戦地として直接被害を受けた地域ではない。また、全国的にはそのような地域のほうが多い。」ということです。

戦地として直接被害を受けたり攻撃によって被害を受けたりしなくても、物資の不足や配給制度、出兵などで苦しい生活を送っていたことを初めて知りました。また、広島の実爆で被害を受けた範囲は牛久市の半分よりも広いことを知り、原子爆弾の威力の強さを改めて実感することができました。

(2) 被爆体験者のお話から学んだこと

今回 私たちがお話を伺った梶本淑子さんは、14 歳の時に爆心地から 2.3 km 離れた場所で被爆されました。梶本さんは、原子爆弾が爆発した瞬間、窓から真っ青な光が見えたといいます。また、「多くの人が水を欲しがっていたのにあげられない状況に胸が痛んだが、あげてはいけなと命令されていたので、従うしかなかった」というお話も伺いました。講話を通して、「死んでも地獄 生きても地獄」という言葉の意味を理解することができました。

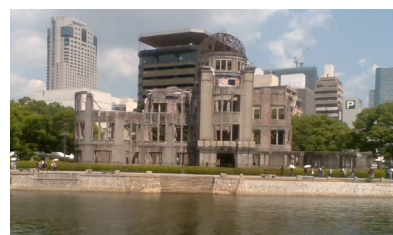
また、私たちのような現代の中学生と 81 年前の中学生の様子は全く違ったし、今の自分が当時のような生活をしたり、働いたりするのは信じられないなと思いました。

私は、講話の中で梶本さんがおっしゃった「無知・無関心は『共犯者』と同じ」、「忘れられれば、同じことを繰り返すのが人間だ」という言葉が印象に残っています。私はこの言葉を聞いて、「学んだことを忘れずに伝えていくことで、戦争を風化させないようにしたい」と思いました。

(3) 平和資料館および平和公園（原爆ドーム）から学んだこと

私は、原爆ドームのもともとの姿に衝撃を受けました。今残っている部分よりもはるかに大きく、今の原爆ドームは、もともとの「広島物産陳列館」の一部であることを知りました。

また、資料館での研修では、展示されている実物や写真に強い印象を何度も受けました。展示の中には胸が痛むほど生々しく、悲惨さが伝わってくるものも多く、「2 度と戦争を繰り返してほしくない。」と思いました。



(4) 広島市平和記念式典に参列して感じたこと・学んだこと

私は、式典に参列したことで、平和の尊さについて深く考えられました。実際に参列したことで、会場の雰囲気を感じることができたので、平和の大切さを改めて知ることができました。また、式典に様々な国の人が参列しているのを見て、「いろいろな国の人が1つの会場に集まって、同じことを考えているのはとてもすごいな」と思いました。



(5) 呉市大和ミュージアム、海自資料館の訪問から学んだこと

私は今まで、「日本は原爆の被害を受けた、とてもかわいそうな国だ」「日本は悪くない」と思っていました。ですが、見学を通して、日本も敵軍と戦うための戦闘機や武器を製造して、攻撃していることを知りました。

この発見から、日本は「被害を受けただけの国」ではなく、ほかの国と同じように「外国に傷を与えた国」でもあることが分かりました。見学を通して、「敵軍にとって、日本はどんな存在だったのか」について、さらに考えたり調べたりしてみたいなと思いました。



3 研修を終えて（平和への考え）

(1) 学校や家族に伝えたいこと

戦争は、忘れられればまた繰り返されます。だから、何年経っても戦争の悲惨さや平和の尊さを決して忘れずに、1人ひとりが「平和」について自分なりに考えてみてほしいです。1人ひとりの小さな行動が積もっていけば、いつか必ず大きな1歩を踏み出すことができます。その「いつか」のために、いつまでも平和への歩みを進めていってほしいです。

私たちにお話を聞かせてくださった梶本さんは、「無知・無関心は『共犯者』と同じ」、「みなさんには、共犯者になってほしくない」とおっしゃいました。だから私は、戦争の悲惨さや平和の尊さを多くの人に伝えて、知ってほしいです。また、もう2度と戦争を繰り返さないために戦争のことを忘れず、風化させないでほしいです。

(2) これから行動していきたいこと

自分が平和使節団の活動で学んだことや感じたこと、自分たちの願いを伝えることで、多くの人が「平和」について考えられるようなきっかけを作っていきたいです。自分自身も研修で学んだことを忘れずに、「平和」について自分なりに深く考えてみたいです。また、戦争を「過去のこと」にしないために、被爆者の想いや平和のバトンを次へ繋げていきたいです。



研究課題：ヒロシマの歴史を多くの人に伝える

牛久第三中学校学校

2年 太田 咲良花

1 研究課題設定の理由

私は広島市を訪問し、原子爆弾の影響で変わった生活や、戦後も後遺症などで苦しんでいる人達のこと、戦争の悲惨さや、平和の尊さを学び、もっとたくさんの人にこのことを知ってほしいと考えたからです。

2 研修の記録（事実や気づき・印象的な体験・自分の意見・心に残ったこと）

(1) 戦争当時の牛久の様子（講話）から学んだこと

牛久は空襲の標的にはなっておらず、直接的な被害は少なかったですが、爆撃機の通り道になっていました。米の配給が制限され、足りなくなると少量の野菜やいもを食べていました。戦争中の報道では、特攻などの勇ましい戦果が列挙されていましたが、誇張しているものだったそうです。標的にされていない牛久でも、食量や衣類、金属のものなどが回収され、物資不足になっていたことを知り、戦争は人々に大きな苦しみをもたらし、決して起こしてはいけないことだと改めて強く感じました。

(2) 被爆体験者のお話から学んだこと

梶本さんのお話を聴き、原爆の恐ろしさがよくわかりました。爆撃直後全身に火傷を負い、真っ赤になりおばけのような姿で、人々は水を求めていました。友達や町の人の中には皮膚がはがれていたり、足の骨が見えていたりと言葉が出ないほど地獄のような状況だったそうです。

戦後も食糧不足でバッタや食用カエルを食べていたり、後遺症が残ったりなどの苦しみと闘っていました。「忘れられた歴史は繰り返す」という言葉を聞いて、戦争の恐ろしさ、平和の尊さなどを一人でも多くの人に伝え、みんなが自分事のように考えていくよう繋げていくのが大切だと考えました。



(3) 平和資料館および平和公園（原爆ドーム）から学んだこと

～平和資料館～

原爆で、台風の何倍にもなる爆風と、表面温度が7000度～8000度の骨が焼けるほどの熱線、白血病やがんになってしまう放射線の主な3つの被害を受けました。資料館では、爆撃直後の惨状や原爆によってけがや後遺症を負った人の写真などが展示されており、見ているだけで胸がいたくなり、つらかったです。

～平和公園～

原爆は1945年8月6日午前8時15分に島病院の上空約600mで爆発し、広島に大きな影響を与えました。平和公園には「平和の灯」があり、世界が恒久平和になるという願いが込められています。この灯は地球上から核兵器がなくな



る日まで燃え続けます。今でも燃え続けていたのでまた戦争で核兵器が使われてしまったらと考えると、とても恐ろしく思います。

(4) 広島市平和記念式典に参列して感じたこと・学んだこと

平和式典で、爆撃直後、全身黒く焼けてしまい、火傷した皮膚が垂れ下がるなどの言葉が出ないような悲惨な状況だったことが伝わってきました。生き残った人も後遺症が残ったり大切な人を失ってしまったりと、心身ともに傷つけられたことがわかりました。核兵器の恐ろしさをもっと多くの人に知ってもらいたいです。

(5) 呉市大和ミュージアム、海自資料館の訪問から学んだこと

海底に設置され、船舶の接触や磁気に反応した時に自動で爆発する機雷が使われていました。特攻兵器「回天」は酸素魚雷をもとにした兵器で、人が一人乗り、敵艦に体当たりする特攻兵器です。そのようなものが平然と使われている戦争の時代にぞっとしました。



4 研修を終えて（平和への考え）

(1) 学校や家族に伝えたいこと

いま私たちが当たり前のように過ごしている平和な生活は、決して当たり前ではなく、とても幸せなことだということを伝えたいです。心身ともに傷つける核兵器の恐ろしさ、平和の尊さを家族や友達などの周りの人に伝えようと思います。

(2) これから行動していきたいこと

私は広島で学んできたことをまとめ、戦争の悲惨さと命の大切さを1人でも多くの人に伝えていきたいです。日本は過去に戦争を経験し、多くの人々が苦しみ、たくさんの命を失ったということを心に刻み、一人ひとりが平和について考えてもらえるように努めていきたいです。



研究課題：戦争の原因と原爆が人体に及ぼした影響

牛久第三中学校 2 年 前田 鼓

1 研究課題設定の理由

戦後 81 年が過ぎ、実際に戦争を経験した人が少なくなり、戦争について知る機会が減ってきています。戦争がなぜ始まってしまったのかを知り、同じことを繰り返さないためにこの研究課題を設定しました。

2 研修の記録（事実や気づき・印象的な体験・自分の意見・心に残ったこと）

(1) 戦争当時の牛久の様子（講話）から学んだこと

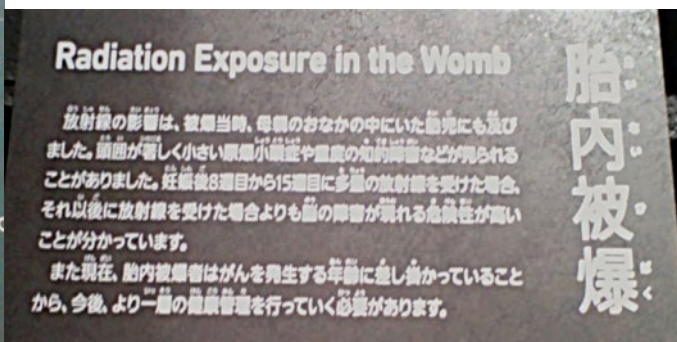
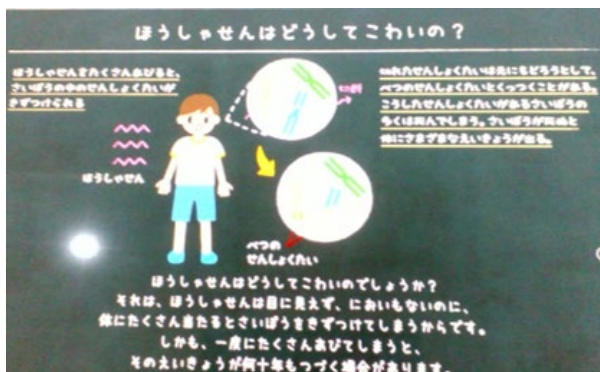
私は講話を聴いて、軍に入営することは名誉なことだとされていたこと、霞ヶ浦近辺は軍事施設が多く広がっていて牛久が爆撃機の通り道になることなど様々なことを学びました。その中で強く印象に残ったのは、当時情報を得るために使われていた新聞やラジオで戦果の誇張や損害の隠蔽がされていたことです。日本が勇ましい戦果を挙げていると思っていた時実際には敗走していたと戦争が終わった後知らされるのはとても恐ろしいことだと思いました。

(2) 被爆体験者のお話から学んだこと

被爆体験者の方は私と同じくらいの年齢のとき、原爆が落ちてきて口や鼻すべてを押さえ逃げたと聞いて、とても驚きました。私がもし今原爆が落ちてきたら同じ行動ができたとは到底思えません。それを聞いていた時、当時の学生がどれだけ戦争について教えられていたのか身をもって感じました。

(3) 平和資料館および平和公園（原爆ドーム）から学んだこと

平和資料館は自分の研究課題について詳しく知る事ができました。私の研究課題にある人体への影響では、放射性物質がなぜ人体に悪影響を及ぼすのか、染色体とは何かについて学ぶことができました。放射性物質はお腹の中の胎児にまで影響を及ぼし、知的障害になる可能性が高いということを知り、被爆者だけでなくその子供にも被害を及ぼす原爆の恐ろしさを改めて感じました。



平和公園では広島県民の方の平和への強い思いが分かりました。原爆の子の像の周りには数えきれない量の千羽鶴があり、小学校から奉納されているものもありました。毎年作って飾っていたら置く場所がなくなってしまうほどの量なので、再生紙にして卒業証書に使われているそうです。平和を願い作られたものが学校生活にまで根付いていて、すごく温かい市だなと思いました。

(4) 広島市平和記念式典に参列して感じたこと・学んだこと

平和式典は日本だけではなく、様々な国が参列しており平和を守る事の重大さを学びました。また、広島市長の平和宣言からどんなに恐ろしいことでも目を背けず、平和が当たり前ではないことを忘れないよう過ごそうと改めて感じました。平和への誓いでは「平和とはだれかから与えられるものでなく、世界中の人々で創り上げるものです。子供である私たちも、その一員として平和への一歩を踏み出します。」とあり、第二次世界大戦を他人事として見ず、自分事として考えていこうと思いました。

(5) 呉市大和ミュージアム、海自資料館の訪問から学んだこと

私は戦艦大和を見て、戦争の規模の大きさにとても驚きました。また、機雷という爆弾は海にばらまかれ、掃海した今でもまだ残っていることを知り、戦争の悲惨さ、平和の大切さをより感じました。潜水艦あきしおの中にはすごく遠くが見える望遠鏡があり、こんなに遠くから危機を察知しなければいけない戦争にぞっとし、絶対に繰り返したくないと思いました。



4 研修を終えて（平和への考え）

(1) 学校や家族に伝えたいこと

私は、第二次世界大戦後の被害を伝えたいです。私たちが勉強しているのは主に戦争の終わりまでですが、被爆者の方は、戦争が終わった後、すぐにいつもの生活に戻れたわけではありません。家もなくなり、食べ物にありつけるかも分からない生活が長く続き、カエル、バッタ、イナゴ、葉などをすりつぶして粉末にしたものなど、食べられるものなら何でも食べていたそうです。また、英語を話してはいけず、フライパンなどの単語だけでも話せば「非国民」と言われたことを知りました。私は、自由に発言できることを特別なことだと思ったことはありませんでした。しかし、広島で話を聞いて、今、自分が自由に発言できていることや、普通に生活できていることが幸せだということを学びました。いま私たちが当たり前だと思っている生活はとても幸せだということを伝えたいです。

(2) これから行動していきたいこと

今、核保有国が「核を落とす」というような発言をしています。唯一、核兵器を落とされた国として、他の国の人たちが同じような被害にあうことのないように、広島で学んできたことを身近な人など、より多くの人に伝えたいと思います。

また、いろんな地域の資料館に行き、それぞれの戦争の状況を知りたいと思います。

研究課題：被爆者の思いを感じ取り、みんなに伝える

下根中学校

2年 井坂日向子

1 研究課題設定の理由

実際に体験した人の話を聴いたり当時のものや写真、絵などを見たりしてその場面を想像して感じ取り、それをもう二度と起こらないようにするために、被爆者の思いを感じ取るのは大切だと考えたからです。

2 研修の記録（事実や気づき・印象的な体験・自分の意見・心に残ったこと）

(1) 戦争当時の牛久の様子（講話）から学んだこと

戦争当時の牛久は直接戦場になったわけではなく、戦争のために人も物資も全てが動員されていたことを学び、直接戦場でなくても戦争とは無関係でいられないことを知り、とても大変だったのだろうと考えました。

(2) 被爆体験者のお話から学んだこと

爆心地から半径2kmが焼け野原になり、75年は草木が育たないだろうといわれていたそうです。また、被爆して2日目には死体が落ちていて踏みながらでないと歩けない状態で、感情がなくなったように死体をどんどん踏んで歩いて行ったことを知り、原爆により多くの人が死んでしまい、被爆者は差別され放射線による後遺症で亡くなる人が多いことを知りました。その話から、人々は原爆を落としたアメリカや日本の政府を恨んだのではないかと考えました。

(3) 平和資料館および平和公園（原爆ドーム）から学んだこと

被爆してしまった人は自分がすごくひどい傷などをしていても家族のことを考えていたり、被爆してけがをした人のことを助けるために手当をしたりしていたことを学びました。また、81年たった今でも当時のものが残っていることに驚き、戦争の悲惨さを伝えようとしているのだろうと考えました。



(4) 広島市平和記念式典に参列して感じたこと・学んだこと

- ・広島市の人々などはもう二度とこのようなことが起こらないように平和を誓い、核兵器を減らそうとしていることを実感しました。
- ・広島市では、多くの人々に原爆での被害の事実と復興した現実を伝えていることを学び、私も周りに伝えていこうと思いました。

(5) 呉市大和ミュージアム、海自資料館の訪問から学んだこと

日本も戦時中に色々な兵器を作っていたことを学び、原爆が落とされなかった場合は対抗などをして戦争が長引いて多くの死者が出ていたのではないかと考えました。また、特攻兵器などが作られていて無事生還した搭乗員がいなかったことを知り、日本は戦時中に命を軽く見ていたのではないかと考えました。



3 研修を終えて（平和への考え）

(1) 学校や家族に伝えたいこと

平和は今みたいに当たり前の毎日を過ごすことで、命の大切さやなぜ核兵器を減らしたほうが良いのかなどを伝えていきたいと思いました。

(2) これから行動していきたいこと

研究してきたことを被爆者の話を聞いたことがない人に向けて核兵器の危なさや当時の様子などを伝えていきたいです。また、私は研修を終えて平和とはもっと充実した生活をするということから当たり前に毎日を送ることという考えに変わりました。



研究課題：被爆者の思いを知り、目や耳で実際に感じたことから平和について考え、戦争を知らない私たちにできることを考える。

下根中学校

2年 鴨志田美結

1 研究課題設定の理由

実際に感じたことや初めて学んだことから平和について深く知り、自分たちにできることを考え、もう二度と起こさないために次世代へ伝えていくことが平和な社会を守り続けるために大切だと思ったから。

2 研修の記録（事実や気づき・印象的な体験・自分の意見・心に残ったこと）

(1) 戦争当時の牛久の様子（講話）から学んだこと

牛久駅を原爆の爆心地だとして広島と重ねて比べると、牛久市の中心を含むかなり広い部分が壊滅的な状態になっていたと分かり、原爆の恐ろしさを学んだ。また、多少事実を隠してまでも、国民を安心させたり、士気を保ったりした方が戦争を続けられると考えられていたため、新聞では敗走しているのに勇ましい結果を報じていたことを知り、戦争では武器だけでなく情報も大きな力になっていたことを学んだ。

(2) 被爆体験者のお話から学んだこと

被爆体験者の梶本淑子さんは、爆心地から2.3km離れた飛行機のプロペラ部品を造る工場での作業中に被爆した。窓に真っ青な光が見え、一瞬にして建物は倒壊し、建物の下敷きから無我夢中で脱出した時、道端には男女の死体が転がり、全身真っ赤に焼かれた顔は腫れ、唇は垂れ下がり、両手を前に出してその先には焼けた皮がぶら下がり、とても人間の姿だとは思えなく、あの日の広島は地獄のようだったと言っていたことが印象に残った。たった一発の原爆であの日死ぬ事など考えもしなかった多くの市民、夢や希望のあった中学生の命や人生、大切なものを奪い、本当に許せないものだったと思った。

(3) 平和資料館および平和公園（原爆ドーム）から学んだこと

実際に原爆ドームを見て、81年経った今でも残っていることに驚いた。また、とても頑丈だった建物でさえ、これほどまでに壊されてしまうのだと、原爆の被害の大きさを学んだ。また、資料館の資料を見て、原爆がこんなにも人々を苦しめたことに言葉が出なかった。一人ひとりに家族や日常があったことを考えると、原爆は遠い過去の話ではなく、とても身近な出来事のように感じた。



(4) 広島市平和記念式典に参列して感じたこと・学んだこと

81年経った今でも毎年行われる式典で記憶を残し続ける大切さや、年齢や立場が違う人たちが同じ目的で集まる意味を感じた。式典を通して、核兵器廃絶やもう二度と起こしてはならないことを、世界へと伝承していく必要があると考えた。また、価値観の異なる人々との国境を越えた交流を深め、自分の思いを発信して、その行動の輪を広げていきたいと感じた。

(5) 呉市大和ミュージアム、海自資料館の訪問から学んだこと

潜航艇は呉で開発された兵器でP基地という呉の秘密基地で搭乗員の教育や訓練を行っていたことを学んだ。また、人が乗り込み、敵艦に体当たりする特攻兵器「回天」などの展示を見て、当時は自分の命を犠牲にしてまでも国のために尽くすことが名誉とされていたことを知り、戦争の残酷さを感じた。



3 研修を終えて（平和への考え）

(1) 学校や家族に伝えたいこと

原爆によってどんな被害があったのか、被爆者の方がどんな経験をしたのか、戦争が人々の生活にどんな影響を与えるのかなどを伝え、命の尊さや自分たちと同じように当時の人たちにも家族や友達がいたこと、戦争や原爆によって、失われるものの大きさを一緒に考えていきたい。

(2) これから行動していきたいこと

過去の出来事で絶対に忘れられてはいけないものだと思うので、原爆や戦争の事についてたくさんの人に知ってもらうため、友達や家族に伝えて、被爆者の思いを受け継いでいきたい。また、相手の気持ちを想像し、意見の違いがあっても認め、受け止めて平和への思いを自分なりの方法で表現していきたい。

研究課題：広島で見たもの、聞いたものを自分の中で終わらせず、 多くの人に伝えること

下根中学校

2年 宮城百花

1 研究課題設定の理由

戦争や原爆を過去の出来事として終わらせずに、同じ過ちを犯さないために、私たち一人ひとりが平和について考えていくことが大切だと思ったから。

2 研修の記録（事実や気づき・印象的な体験・自分の意見・心に残ったこと）

(1) 戦争当時の牛久の様子（講話）から学んだこと

当時、日本のすべての地域で戦争とは無関係ではいらなかったことに、自分であれば耐えられないと感じた。

(2) 被爆体験者のお話から学んだこと

その方は、原爆が投下された瞬間について、「地球が爆発したと思うくらいのすさまじい音」だと話していた。建物の下敷きになり、真っ暗な中で友人の悲鳴を聞き、自分も瓦礫の下に埋まりながら、「私、生きているわ」と実感できた。その声を聞いた時は本当にうれしかった。そして、覆いかぶさっていた友達の体が落ちて、右足が材木に引っかかってびくともしない。「もう足はどう



なってもいい」そんな思いで引っ張った。ようやく足が抜けたときは喜びの気持ちでいっぱいだったそうだ。その中でも、特に忘れないのは、原爆によって大きなけがを負った中学生の男の子が、自分のちぎれた腕を持って歩いてきて、その目の前で亡くなったという話だった。この話を聞いて、戦争で失われるのは「命」だけでないのだと感じた。その人が大切にしていた家族や友達、夢、これから生きていくはずだった未来まですべて奪われてしまうのだと思った。

(3) 平和資料館および平和公園（原爆ドーム）から学んだこと

強く感じたのは、原爆が一瞬で人々の日常を奪ったことの恐ろしさだった。そこには、当時の愛らしい笑顔の写真や遺品、被爆した人々の記録などが展示されていた。一つひとつの遺品には、それを使っていた人の生活があり、その人の家族や友達、夢や未来があったはず。それが一瞬で奪われてしまったことを考えると、とても胸が苦しくなった。

(4) 広島市平和記念式典に参列して感じたこと・学んだこと

広島で起きたことを、「昔の出来事」として考えてはいけなと強く感じた。実際に平和記念公園に立ち、たくさんの人が黙とうをささげ、平和を願っている姿を見て、原爆によって多くの人の命や日常を奪われたことを改めて実感した。特に、静かな雰囲気の中で響く鐘の音や、平和を願う言葉が心に残った。平和は当たり前にあるものではなく、一人ひとりが大切にし、守っていかなければならないと思った。

(5) 呉市大和ミュージアム、海自資料館の訪問から学んだこと

戦艦大和を建造した軍港・呉の歴史を通じ、明治以降の日本と近代化を支えた「ものづくり」の科学技術のすばらしさが伝わったと同時に、戦争の被害だけでなく、日本も戦争を行い、多くの人を傷つける側でもあったことを学んだ。

原爆の悲惨さを伝え、平和を願う一方で、日本自身が過去に戦争をしていたという矛盾。戦争を被害だけで捉えるのではなく、加害の側面も含めて歴史を見ることが平和につながると思った。



4 研修を終えて（平和への考え）

(1) 学校や家族に伝えたいこと

広島で実際に見たことや、被爆者の方から聞いた話を身近な人からどんどん伝え、原爆が人々の生活や心にどれほど影響を与えたのか知ってもらいたいと感じた。平和学習や発表の機会を通して写真や資料、式典で感じたことを紹介し、戦争や核兵器について考えてもらえるようにしたい。

(2) これから行動していきたいこと

自分が学んだことを伝えるだけで終わらず、周りの人にも「平和とは何か、平和とはどのような状態のことをいうのか」を考えてもらうことが、今回広島で学んだ私たちの役割だと思う。伝えたいとかではなくて、伝えなければならない、という使命的なものを感じた。

研究課題：戦争中、どんな建物や物に被害があったのか調べる

牛久南中学校

2年 清野朱璃

1 研究課題設定の理由

人が残した建物や物を見て、戦争前はどのように過ごしていたか、戦争での被害がどれぐらいだったのかを想像して自分の目で見たいと思ったからです。

2 研修の記録（事実や気づき・印象的な体験・自分の意見・心に残ったこと）

(1) 戦争当時の牛久の様子（講話）から学んだこと

直接戦場になったわけではない地域だったが、空襲の恐怖があり近隣の軍事処点を狙った米軍機により牛久も機銃掃射や空襲の標的になったことが分かりました。

軍事処所に食料をゆずっていたから、一般市民は十分な食料がなかったんだなと思いました。

(2) 被爆体験者のお話から学んだこと

梶本さんとその友達が建物の下敷きになってしまい、友達の「明かりが見えた 逃げよう」という言葉で動かなかった足を引っ張って外に逃げられたとき、太陽がなく、建物もない、そして土臭く何とも言えない臭いの中「私、生きているんだ」とうれしくて泣いてしまうほど戦争中はいつ死ぬか分からない状況だったことが分かりました。

目の前で同い年ぐらいの男の子が怖い顔して死んでいったと言っていて、14歳の梶本さんはどれほどつらかったか想像し考えることができました。

(3) 平和資料館および平和公園（原爆ドーム）から学んだこと

原爆投下後、今は原爆ドームと呼ばれている産業奨励館は被爆者の人たちから「悲しみを思い出してしまう」「見るだけでもつらい」という理由で解体を求められていましたが、同じ過ちを繰り返さないよう次世代に伝えるために解体せず保存運動が始まったことが分かりました。ドームのおかげで原爆の被害の大きさを知れてよかったと思いました。





(4) 広島市平和記念式典に参列して感じたこと・学んだこと

高市内閣総理大臣をはじめ、来賓各位、被爆者、ご遺族の方々のご臨席、国内外からの多くの人たちが広島原爆の犠牲になった多くの人たちに対し安らかに眠ってほしいと祈っていること、このようなことはもうさせないという気持ちがその場に参加してよく分かりました。

広島市長だけではなく、子供たちも核兵器をなくすことを願っているんだなと思いました。

(5) 呉市大和ミュージアム、海自資料館の訪問から学んだこと

日本も海に機雷を仕掛け攻撃をしていたことが分かりました。

また、資料館を見て、軍人の人たちは寝るところや食料があつて、一般庶民の人たちより比較的恵まれた環境で生活していたことが分かりました。

一般庶民の人たちが食料を譲っている分、それに見合うだけ攻撃していたんだなと思いました。

4 研修を終えて（平和への考え）

(1) 学校や家族に伝えたいこと

原爆は一瞬で罪のない人々の命を奪い、今でもその影響で苦しんで死んでしまっている人がいる、とても恐ろしいものだとなりました。

それを踏まえて「平和の大切さ」を周りの人に伝えたいです。

(2) これから行動していきたいこと

私は広島原爆について分かったこと、学んだこと、思ったことを、学校や家族、友達以外の人々など、なるべく多くの人たちに伝え、原爆と核の悲惨さを知ってもらいたいです。

私は当たり前が続く一日一日を大切に生きていきます。

研究課題： 戦争の人々の暮らしと戦争への思いを知り 戦争を知らない人に伝えたい
牛久南中学校 2年 岩井 結愛

1 研究課題設定の理由

今は当たり前のように食べられるものは、戦争当時は当たり前には食べられなかったはずだから、戦争当時の食事と私たちと同年の人たちがどんな生活をして、どんなものを食べていたのか知りたいからです。

2 研修の記録（事実や気づき・印象的な体験・自分の意見・心に残ったこと）

(1) 戦争当時の牛久の様子（講話）から学んだこと

牛久市は原爆の被害はなかったけれど、空襲が頻繁にあり爆撃機の通り道でもあったそうです。また、戦争の多くのメリットを伝えるため、新聞は嘘の情報に偏ったものが多く、戦争に勝てるとみんな信じていたそうです。

さらには、食料だけでなく物資不足も起こり、ただでさえ戦争で食べるものが少ないのに可哀想だと感じました。

(2) 被爆体験者のお話から学んだこと

被爆体験者の梶本さんから、当時の様子を伺いました。

『被爆後の広島は“地獄”のようで、道には人の死体だらけであった』

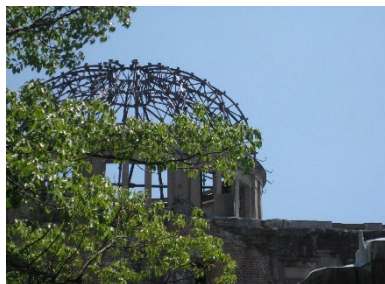
『原爆によって亡くなった人も、生き残ってこれからも生きていく人もつらかった』

『自分が“生きているかどうか”はにおいと光で感じていた』

私たちが毎日当たり前だと自然に感じているものが、当時の方たちには違ったため、それにも感謝していこうと思いました。

(3) 平和資料館および平和公園『広島県物産陳列館（現：原爆ドーム）』から学んだこと

『核兵器は一瞬にして命を奪うもの』だと原爆ドームで学びました。
レーダーがなく本来の標的とは違う場所、広島県物産陳列館（現：原爆ドーム）に落ちてしまったため、多くの人々が亡くなりすごく残念に思いました。



(4) 広島市平和記念式典に参列して感じたこと・学んだこと

被爆者の方や遺族の方にしか感じない気持ちに少しでも近づくことができたと感じました。
改めて、平和の大切さと尊さを学びました。

(5) 呉市大和ミュージアム、海自資料館の訪問から学んだこと

海の上でもいろんな工夫をして戦っていたのだなと思いました。

陸の戦いでも怖いのに、海で戦う人たちは勇敢で心強い人だなと感じました。

また、海の中での生活なども知ることができました。



3 研修を終えて（平和への考え）

(1) 学校や家族に伝えたいこと

「私たちが今いつも通りの毎日を過ごしていることは当たり前のことではない」、
「1日1日を大切にしていかなければいけない」ということを伝え続けようと思った。

(2) これから行動していきたいこと

こうして被爆者の体験を直接聞いて伝えられる最後の世代だから、できるだけ沢山のの人に戦争の恐ろしさを伝え、命の大切さを伝えていきたい。



↑土まんじゅう

研究課題：原爆が落とされた時の広島の状態を調べる		
牛久南中学校	2 年	広瀬優奈

1 研究課題設定の理由

この研究課題を設定した理由は、当時の原爆が落ちる前の広島と落ちた後の広島の違いについて気になったからです。また、原爆が落ちた時の人々の心境はどんなものだったのかも調べてみたいと思ったからです。

2 研修の記録（事実や気づき・印象的な体験・自分の意見・心に残ったこと）

（1）戦争当時の牛久の様子（講話）から学んだこと

新聞では今の戦争の状況を勝っていると伝えていました。けれどそれは嘘で、当時は新聞が情報なのに間違っていて意味ないなと思いました。

周辺には霞ヶ浦海軍航空隊があり、牛久市はその飛行機の通り道となっていました。

（2）被爆体験者のお話から学んだこと

原爆が投下された瞬間、被爆者の方々は何が起こったのか分からないほどの大きな爆発や強い光、爆風に襲われました。突然、周りの建物が壊れ、家族や友人の安否も分からなくなる中で、街の様子が一瞬で変わってしまい、助けを求める人やけがをした人がたくさんいる中で、自分自身どうすればよいのか分からない状況だったと考えられます。

周りからは「いたいいたい」と泣き叫ぶ人々の姿、道端に倒れ焦げてしまっている人々生ごみのようなツーンとした臭さ右腕に穴が開いてしまった大切な友達。

特に心に残ったのは、被爆した方々にとって、原爆はその瞬間だけの出来事ではなかったということです。大切な家族や友人を失った悲しみや、自分自身もけがや病気に苦しむなど、その後も長い間つらい思いを抱えて生活した方が多くいました。大切な家族を亡くし、つらい後遺症を抱え、被爆者差別に苦しむ方がたくさんいました。

実際に広島を訪れたことで、そこで起きた当時の出来事をより身近に感じました。私たちが今普通に家族や友達と過ごしているような日常が、原爆によって突然奪われたことを考えると、とても胸が苦しくなりました。

（3）平和資料館および平和公園（原爆ドーム）から学んだこと

平和記念資料館では当時の人々が身に着けていた衣服やその他の遺品、当時の原爆ドームの周辺の写真があり、たくさんの資料を見学しました。

資料館の資料や展示を通して、原爆によって沢山の人の命や日常が一瞬にして奪われたことを学びました。また被爆した方々は、体だけでなく心にも深く傷を負い、生涯に残る傷を負った人もいました。

特に印象に残ったことは、急性障害という障害です。急性障害の症状としては発熱や吐き気、下痢

などだけでなく、その後も後障害という長期にわたるさまざまな障害が現れ、現在もなお苦しんでいる人もいます。

1946年には火傷が残った痕が盛り上がる症状（ケロイド）が現れ、ケロイドは痛みやかゆみを伴い、まわりからの視線や心無い言葉により精神的苦痛を受けていました。



実際に原爆ドームを訪れてみると、なぜこの場所が原爆の被害を伝える大切な場所として残されているのかを実感しました。原爆ドームの周りには現在、多くの建物や人々の生活がありますが、そこにはかつて原爆によって多くの人の命や日常が奪われたという歴史があります。そこに普通に暮らしていた人々がいたことを忘れてはいけないと思いました

(4) 広島市平和記念式典に参列して感じたこと・学んだこと

平和について思っている人がたくさんいて、今回平和使節団として自分自身も初めて式典に出られて、外国人が多くて外人の方も平和に触れているのだなと思いました。

(5) 呉市大和ミュージアム、海自資料館の訪問から学んだこと

海産物の聖地で昭和29年創設の海軍基地があり、ははじまという潜水艦の構造材料は木でできていて、潜水艦内は夜、赤色のライトがつけます。潜水艦乗りであることを示すドルフィンマークがついていて、あきしおの操縦席は2せきあります。



4 研修を終えて（平和への考え）

(1) 学校や家族に伝えたいこと

戦争は今自分たちの身近にないけれど、たくさんの犠牲があります。だから、自分たちで深く考えていかなければいけません。戦争は自分が体験していないから関係ないと思えるのではなく、もし自分が体験していたらというのを考えて実際に自分から行動したいです。

(2) これから行動していきたいこと

自分たちが実際に広島で学んだことを写真やグラフ、wordなどでまとめたものを簡単にわかりやすく身近の人に伝えたいです。

戦争の悲惨さを自分の目で見たからこそ伝えきりたいです。

研究課題：世界が平和でいるために私たちのできることは何か。

ひたち野うしく 中学校

2 年 吉川悠太

1 研究課題設定の理由

戦争は一人ひとりの考え方や行動も関係すると思います。
平和使節として戦争について学び、自分たちにできることを考え、生活していこうと思ったからです。

2 研修の記録（事実や気づき・印象的な体験・自分の意見・心に残ったこと）

(1) 戦争当時の牛久の様子（講話）から学んだこと。

前線の物資が不足していたので食料を生産したらすぐ軍人の物資のものになると知った。
国を守るのも大事だが市民を巻き込むのはおかしいと思った



(2) 被爆体験者のお話から学んだこと

被爆者の話を聞いて、原爆によって多くの人の命や生活が一瞬で奪われたことを知り、戦争の恐ろしさを改めて知りました。

また、被爆した後も病気や差別などに苦しみながら生活していた人がいたことを知って、戦争はその時だけでなく、その後の人生にも大きな影響を与えるのだと考えました。

(3) 平和資料館および平和公園（原爆ドーム）から学んだこと

平和資料館や平和公園を訪れて、原爆によって多くの人々の命や大切な日常が奪われたことを学びました。

何も罪のない人たちが苦しんだことや、戦争に関係のない市民が何も知らずに殺されたのはおかしいと思います。



(4) 広島市平和記念式典に参列して感じたこと・学んだこと

前まではこんなことがあったのだな思っていたのですが、実際に参加すると世界の首相や有名な人たちがいて世界の人たちも被爆の地広島に来て供養しているのだなと思いました。この式典が 100 年、1000 年先も続いて戦争を風化させずにいたいです。



(5) 呉市大和ミュージアム、海自資料館の訪問から学んだこと

大和ミュージアムや海自資料館で、戦争の悲惨さや多くの命が失われたこと、海上自衛隊が日本の安全を守っていることを学んだ。
実際の資料を見て、平和は当たり前ではないと思いました。



4 研修を終えて（平和への考え）

(1) 学校や家族に伝えたいこと

世界が平和であるため、過去にあった戦争を忘れないようにするため、戦争の悲惨さや恐ろしさを伝えていきたいです。

(2) これから行動していきたいこと

パワーポイントやワードで平和や戦争の悲惨さをまとめてそれを学校で発表したいです。
また、写真で当時の様子や戦争の様子を伝えたいです。私は平和を伝えるために過去の悲惨な出来事を学び、生活していきたいです。

研究課題：原爆が落とされた後の人々の生活を調べて、 身近な人に伝えていきたい

ひたち野うしく中学校

2年 菊池 柚風

1 研究課題設定の理由

原爆が落とされた後の食料、衣服、学校などの生活は終戦後の今の生活とは全く違う暮らしをしていると思い、現在とは違った人々の生活を詳しく知り、身の回りにいる人たちに自分が思ったこと、その場に行って学んだことを伝えたかったからです。

2 研修の記録（事実や気づき・印象的な体験・自分の意見・心に残ったこと）

(1) 戦争当時の牛久の様子（講話）から学んだこと

戦争当時の牛久は特に大きな被害を受けることはなかったそうです。
ですが、牛久付近に霞ヶ浦海軍航空隊や第一海軍工廠など、一大軍事施設が広がっていたため、牛久は空襲の標的となり、爆撃機の通り道になることもあったみたいです。

(2) 被爆体験者のお話から学んだこと

原爆が落とされた次の日八月七日には歩いてだけで変なおい、下を見ると死体がたくさんあったそうです。また、今でも土の下に見つかっていないお骨がたくさん残っているそうです。

戦争当時、広い道を作るために中学一、二年生は建物疎開を行っていたと言われています。原爆が落ちたあと、ほとんどの人々が建物の下敷きになり、目を覚ましたら空が昼なのに夜のようになり真っ暗だったそうです。体中から大量の出血、皮膚は垂れ下がり爪にたまっている、やけどしているため体に触れると激痛が走り手を前に伸ばして歩いていたとのことでした。

ですが、学校で血の止め方を習っていたから、血はできる限り止められたそうです。

当時の情報入手はラジオではなく新聞が当時の人々の命だったそうです。

そして今ある川は原爆で亡くなった人々への感謝を示しているそうです。

実際に体験している方のお話を聞いたとき、そんなことが現実で起きるのかと鳥肌が立ち、ぞくぞくしました。



(3) 平和資料館および平和公園（原爆ドーム）から学んだこと

広島に原爆が落とされた理由は、日本軍の重要な施設があり、兵士などが集まる軍事的に重要な都市だったからだそうです。広島はそれまで大規模な空襲をあまり受けていなかったため、どのくらいの被害が出るのか実験でもあったそうです。広島以外にも原爆を投下するいくつかの都市が候補になっていたそうです。八月六日の朝ほかの候補は天気が悪く、広島は天気が良かったため、原爆が落とされたそうです。



(4) 広島市平和記念式典に参列して感じたこと・学んだこと

私は式典に参列して、たくさんの国から大使などがきて、いろいろな人が「平和」を願っているのだと感じました。今、原爆についてたくさん話をきいて、調べられる私たちが周りの人に広島原爆について伝えていかなければいけないと思いました。

そして私は、原爆死没者の方々に「たくさん頑張ってくれてありがとうございました」と感謝を伝えたいです。

(5) 呉市大和ミュージアム、海自資料館の訪問から学んだこと

呉市大和ミュージアムは戦艦「大和」を建造した軍港で、大日本帝国海軍が建造した最強の戦艦だそうです。海軍と海軍工廠で発展した呉の歴史を伝えるために作られたそうです。

海の中でも国のために働いている人がいると思うととても私たちは守られているのだなと感じました。

3 研修を終えて（平和への考え）

(1) 学校や家族に伝えたいこと

その場に行ってしっかり学んだことや平和の尊さについてしっかり伝えたいです。

伝えて、みんなが理解してさらに広くいろんな人に伝えてくれたら多くの人が平和について知れるなと思いました。

(2) これから行動していきたいこと

もっともっと戦争について詳しく知って、今しか知れないことをたくさん知ってもうこんなことが起きないように、今私たちにできることをしていきたいです。

戦争の恐ろしさや平和の尊さを写真や資料を使ってわかりやすいように伝えていきたいです。

研究課題：戦争当時、自分と同年代だった子供たちがどのような暮らしを送っていたのか調べる。

ひたち野うしく学校

2年 長嶋愛奏

1 研究課題設定の理由

今自分たちは、学校にも行けて、ご飯を食べられて、帰る場所があるという、恵まれた環境に生きているが、昔の子供たちは過酷な環境に生きていたはずなので、そのことについて詳しく知りたいと思ったからです。

2 研修の記録（事実や気づき・印象的な体験・自分の意見・心に残ったこと）

(1) 戦争当時の牛久の様子（講話）から学んだこと

当時の牛久は直接の戦場となったわけではありませんが、付近に一大軍事施設が広がっていたため、爆撃機の通り道になることもありました。昔の人々は物資不足に悩み、正確な情報も得られないまま国のために過酷な生活を強いられ、非常に苦しかったのだなと感じました。

(2) 被爆体験者のお話から学んだこと

学生たちは十分な勉強もできず、学童疎開や労働など、戦争による苦しい生活を送っていました。中学1、2年生は火災の延焼を防ぐための「建物疎開」（建物の解体作業）を行い、3年生以上は工場で飛行機のプロペラなどを作っていたそうです。グラウンドはイモ畑になり、1945年からは学校での授業が完全になくなって、全員が戦争に関わらざるを得なくなりました。

国全体が窮乏していたため、食事もお米のほかは、白湯に醤油を垂らし、イモのつるなどを入れた質素なものばかりでした。梶本さんのお話を聞いて、戦争は二度と繰り返してはならないと感じました。また、「今ロシアが保有する核兵器は広島に投下されたものの何十倍もの威力がある」というお話を聞き、絶対にそれを使わせてはならないと強く思いました。

(3) 平和資料館および平和公園（原爆ドーム）から学んだこと

原爆ドームをめぐるっては、「見るだけで当時を思い出してしまうから壊してほしい」という声があったと知りました。しかし、それ以上に「後世に原爆の恐ろしさを伝えるために残したい」という願いが強く、現在まで保存されてきました。自身のつらい記憶が呼び起こされるものであっても未来の平和のためにあえて残す判断を下した昔の人々の強い覚悟と意志に、感銘を受けました。



平和公園の地面の下や土まんじゅうの中には、今もなお身元が分からない多くの人々の遺骨や遺品が眠っているそうです。

資料館には当時の人々の切実な思いが記された資料もあり、その中には「こんなにつらいなら死んだ方がましだ」という主旨の言葉もあり、胸が痛くなりました。ただ歴史の事実を学ぶだけでなく、そこで生きた人々の苦しみや悲しみに目を向けることの大切さを痛感しました。私たちはこの歴史を風化させず、過去の悲惨な記憶から学び続けなければならないと強く思います。



ひしゃげた自転車。原爆の威力を物語っている。

(4) 広島市平和記念式典に参列して感じたこと・学んだこと

海外からも多くの人々が式典に参列し、原爆の恐ろしさや平和の尊さを知ろうとしていることが分かりました。

平和への誓いでは、自分よりも年下の子どもが平和について深く考える姿に胸を打たれました。

式典には国のトップや多くの要人も参列しており、原爆はそれほど重く受け止めなければならぬ、重大な問題なのだと感じました。

(5) 呉市大和ミュージアム、海自資料館の訪問から学んだこと

海自資料館では、武器や歴史など、普段は知ることのできないことを多く学びました。海軍軍人の暮らしなどを見て、命懸けで戦う一方で、食事や寝具といった環境の面では一般の市民よりも恵まれていたことが分かりました。しかし、市民が国のために働いていたのと同じように、軍人も命を懸けて国のために戦わなければならない状況は、やはりとても過酷なことだと感じました。

3 研修を終えて（平和への考え）

(1) 学校や家族に伝えたいこと

原爆というのは、罪のない人々の命を一瞬で奪ってしまう、絶対にあってはならない恐ろしいものなのだと強く実感しました。また、海外では「原爆を落としたおかげで戦争が終わった」というように、原爆を正当化する考えを持つ人もいると知りました。しかし、どれほど理由があつたとしても、多くの尊い命を一瞬で奪った原爆の恐ろしさが薄れるわけではなく、その考え方は違うのではないかということを伝えたいです。

(2) これから行動していきたいこと

使節団で学んだことや自分で調べて分かったことを身近な人に伝え、被爆者の話を直接聞くことができる最後の世代として、次世代に平和の大切さを残していきたいです。また、一日一日を大切に過ごし、自分や周りの人の命をしっかりと守りながら生きていきたいと思っています。

研究課題：核の脅威について調べる

おくの義務教育学校

8年 長峯真空

1 研究課題設定の理由

広島に原爆が落とされ、たくさんの人々が亡くなったことは知っていましたが、原爆の被害や今も続く核兵器のことは全く知りませんでした。広島で起きた被害を知って核兵器は本当に必要なのかを考えました。この考えをみんなに伝えなくてはならないと思いました。

2 研修の記録（事実や気づき・印象的な体験・自分の意見・心に残ったこと）

(1) 戦争当時の牛久の様子（講話）から学んだこと

牛久は戦争とは無縁と考えていましたが、牛久付近の軍事施設を攻撃するために爆撃機の通り道になっていたり、お寺の鐘が回収されていたりしたことを知りました。牛久は戦争の被害なんてないと思っていましたが、調べて牛久にも被害があったんだということを知り、心に残りました。

(2) 被爆体験者のお話から学んだこと

14歳で被爆した梶本さんから話を聞いて、平和資料館とは違う怖さを感じました。爆心地から2.3km離れた工場で準備をしていた時に被爆し、工場の下敷きになってしまいました。足と腕が裂けてしまう大けがを負いましたが一緒に働いていた友達と一緒になんとか這い出たそうです。外に出てみると魚が腐ったような強烈な匂いがしたそうです。地獄のような光景で自分の手を持ちながら死んでいった子供や皮膚がただれて大火傷を負った人たちがお化けのように水を求めて川へ向かう行列ができたそうです。道路は死体だらけで死体を踏みつけながら歩かなければいけなかったとおっしゃっていました。私はこの話を聞いて漫画やアニメでも見ないようなことが広島に起きて、たくさんの人の命が奪われてしまったと思うと心が痛くなりました。

(3) 平和資料館および平和公園（原爆ドーム）から学んだこと

被爆した当時の写真や服、被爆者の写真を見て改めて原爆の怖さを思い知らされました。実際に見ないとわからないことがたくさん学べました。平和公園の平和の灯は言葉では表せないような平和への願いが込められていると感じました。そして絶対に核をなくさなければならないと思いました。



(4) 広島市平和記念式典に参列して感じたこと・学んだこと

広島市長の平和宣言ではすごく説得力があり、世界の為政者への核兵器廃絶の呼びかけをしているときもとてもその通りだと共感しました。また子ども代表からの平和への誓いはすごく心にくるものがあり圧倒されました。平和とはなにか、また平和への大切さがすごくわかりました。

(5) 呉市大和ミュージアム、海自資料館の訪問から学んだこと

海軍の潜水艇の中や実物が見ることができて迫力がすごかったです。また機雷を今でも回収していると聞いて今でもそれが残っていることにびっくりしました。また模型も実物にそっくりで詳しく見ることができました。たくさんの展示物があって分かりやすかったです。

4 研修を終えて（平和への考え）

(1) 学校や家族に伝えたいこと

原爆を知っている人は多いと思うけれど、被害を詳しく知っている人はあまりいないと思うので、詳しく伝えたいなと思いました。また家族に平和とはなんなのかも聞いてみたいと思いました。

(2) これから行動していきたいこと

平和への大切さをみんなに伝え、より詳しく戦争と原爆のことを調べていきたいです。そして、私は将来の子どもたちに少しでも原爆や戦争に興味を持ってもらえるように頑張りたいです。



研究課題：原爆がもたらす建物への被害について調べる

おくの義務教育学校 8 年 亀井千春

1 研究課題設定の理由

原爆がもたらす人体や植物への被害については、既にたくさんの人がわかりやすくまとめているけれど、建物への被害については人体などへの被害と比較するとうまくまとめられていないと感じ、詳しく調べたいと思ったからです。

2 研修の記録（事実や気づき・印象的な体験・自分の意見・心に残ったこと）

(1) 戦争当時の牛久の様子（講話）から学んだこと

戦時中に出された金属回収令によって、家庭や寺から様々な金属が回収されていたことや、牛久はあまり大きな被害がなかったこと、当時の茨城について詳しく載っている資料が予科練記念資料館に展示されていることを学びました。

ほかにもお寺にある鐘までもが回収の対象になっていることを初めて知り、驚きました。

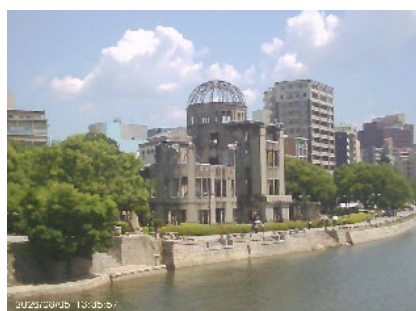
(2) 被爆体験者のお話から学んだこと

今回講話をしてくださった被爆体験者の梶本さんが、爆心地から 2.3 km 離れた工場で被爆し、工場が粉々になり、そのがれきから出てきた時に魚が腐ったような生臭いにおいがしたと言っていたことや、爆心地から 2.3 km も離れた場所でも焼け野原になったことに、驚きを隠せませんでした。



(3) 平和資料館および平和公園（原爆ドーム）から学んだこと

2 日間訪れた資料館には、私の研究テーマである原爆ドームの今と昔の模型があり、とても参考になりました。他にも今まで知らなかった原爆についての新しい知識をたくさん得ることができました。原爆ドームにはまだ階段やレンガなどが当時のまま残っていて、その被害を伝えていました。



(4) 広島市平和記念式典に参列して感じたこと・学んだこと

平和のため、そして当時の悲惨さを知るために、いろいろな国からたくさんの人が一つの国に集まっていることに、深く感動しました。原爆という問題は、日本以外でもたくさんの国で考えられていることを改めて実感しました。そのたくさんの国の中には、今も戦争をしている国があることが心に残りました。

(5) 呉市大和ミュージアム、海自資料館の訪問から学んだこと

81年も前の機雷が、今も海の中に残っていて、回収され続けていることに驚きました。また、当時は陸だけでなく、海でも戦争が起きていたことを学びました。大きな潜水艇をどのようにして引き上げたのかなども詳しく展示されていて、分かりやすかったです。

3 研修を終えて（平和への考え）

(1) 学校や家族に伝えたいこと

想像していたよりも、戦争を絶対に悪いものだと思っている人が少ないことを知りました。だからこそ、戦争のどんなところが危険なのかを周りの人に伝えていきたいです。また、どうして戦争が起きるのかを一緒に考えていきたいです。

(2) これから行動していきたいこと

平和の大切さや戦争がもたらす被害、原爆を使うとどうなるのかを、学校や家族に伝えていきたいです。そして、過去の過ちを繰り返さないために、今回学んだことを周りの人に伝え、後世に残していきたいです。



研究課題：原爆による被害を調べて被害の大きさを伝える

おくの義務教育学校 8年 黒田 彩夏

1 研究課題設定の理由

授業で広島原爆について基本的なことは教えてもらいましたが、被害がどこまで広がり、どのような被害があったのかは詳しく分かりませんでした。そこで、原爆による被害についてもっと詳しく知りたいと思い、「原爆による被害の大きさ」を研究課題にしました。

2 研修の記録（事実や気づき・印象的な体験・自分の意見・心に残ったこと）

(1) 戦争当時の牛久の様子（講話）から学んだこと

牛久市周辺にはあまり被害はないと思っていましたが、実際には爆撃機が通っていたことを知りました。また、お寺の鐘が回収されたことも印象に残りました。被害はないと考えていたので、実際に話を聞いて、被害がなかったわけではないことを知りました。

(2) 被爆体験者のお話から学んだこと

当時14歳だった被爆体験者の方は、働いていた工場に着いて準備をしているところで、目の前が青白い強い光で覆われたようになり、爆心地から約2.3kmのところで被爆しました。近くにいた友達も泣いており、「助けたい、助けなきゃ」という一心で、がれきの中から出ました。そして、他の人も助けるために、近くの公園へ動けなくなった人を運びました。最初は人を踏むことをためらっていたけれど、何度も人を運んでいるうちに、何も気にしなくなったそうです。

被爆後は、あたりが真っ黒になり、土や魚が腐ったようなにおいがして、食料もなかったため、そこら辺に生えている草を食べていたそうです。その話を聞いて、当時の人々がどれほど大変な状況に置かれていたのかを想像すると、言葉が出ませんでした。また、「戦争をやめよう」と言うだけでも命取りになり、情報も一切なく、ラジオも新聞もなかったという話から、戦争中は自分の思ったことを自由に言うことさえできないのだと感じました。

(3) 平和資料館および平和公園（原爆ドーム）から学んだこと

原爆ドームは銅できており、銅の部分は溶け屋根の骨組みだけ残った。原爆は元々T字路の相生橋に落とされる予定だったが、どのような爆弾か分からないため、島病院上空に落ちた。

平和公園の平和の灯は世界中の核兵器がなくなるまで消えない。原爆ドーム壁は、補強工事されているので、当時のまま残っている。（震度7まで耐えられる）



原爆ドーム

(4) 広島市平和記念式典に参列して感じたこと・学んだこと

平和記念式典に参列して、戦争のはかなさや平和の尊さを感じました。原爆によってたくさんの命が奪われたことを改めて感じ、平和を願うこの式典はとても大切なものだと思います。二度と核兵器を使ってはいけないし、戦争もしてはいけないと思います。核兵器は私たちにはいらないものだと強く感じました。

(5) 呉市大和ミュージアム、海自資料館の訪問から学んだこと

戦艦で機雷を回収していることを知りました。実物を見ることができ、その大きさに驚きました。これまで戦争は陸で行われるものだと思っていましたが、実際には海でも行われていたことを知り、戦争について新しい見方を持つことができました。



3 研修を終えて（平和への考え）

(1) 学校や家族に伝えたいこと

戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えていきたいです。「戦争によって、このような被害が起こる」ということを家族や学校の人たちに伝えたいです。また、核兵器の恐ろしさや、核兵器は人の命を奪うだけでなく、体にも大きな影響を与えることを伝えていきたいです。

(2) これから行動していきたいこと

これから、核や放射線、戦争についてももっと詳しく調べたいです。そして、今回の研修で学んだことを、自分より下の学年の人たちにも伝えていきたいです。戦争の悲惨さや核の恐ろしさ、平和の大切さを伝えて、少しでも多くの人に戦争について考えてもらいたいです。そのためにも、自分自身がもっと勉強して、分かりやすく伝えられるようになりたいです。

